

令和7年度 第1回大台町立小学校のあり方検討委員会 議事録

令和7年5月28日(水) 14時00分～
大台町役場2階 大会議室

【出席者】 齋藤 平、竹内 一、西村 茂、上瀬恵子、森井哲永

【欠席者】 松崎寛子

【事務局】 福岡 佳久(教育長)、山下 晃(子ども教育課長)

門野 恭行(学校再編係長)、小野 真由(学校再編係主事)

1. あいさつ

大台町教育委員会 教育長 福岡 佳久

2. 委員の委嘱について

資料1のとおり

3. 大台町立小学校のあり方検討委員会設置条例について

資料2のとおり

4. 協議事項

1) 委員長、副委員長の選出について

委員長 竹内 一

副委員長 齋藤 平

2) 大台町立小学校のあり方検討委員会への諮問

別紙のとおり

3) 大台町の現状について

4) 今後のあり方検討委員会の計画について

委員会の目的は、大台町の小学校の適正規模や適正配置について協議し、答申を行うことです。大台町では児童数が減少し続けており、これに伴い複式学級の解消や学校の統合が検討されています。特に川添小学校と宮川小学校は複式学級を抱えており、教育環境の改善が急務です。また、町内の学校施設は老朽化が進んでおり、特に60年以上経過した校舎の安全性が問題視されています。町の長寿命化計画では、日進小学校と三瀬谷小学校の建て替えが提案されていますが、財政的な制約や地域の合意形成が課題となっています。

会議では、委員から複式学級の教育効果や、小規模校のメリットとデメリットについて意見が交わされました。委員からは、複式学級の良さを強調しつつも、児童数の少なさが教育活動に及ぼす影響についての懸念、現在の児童数の減少を踏まえた統合の必要性、教員の質や配置の問題を挙げ、特に小規模校における講師の増加が教育の質に影響を及ぼしているなどの意見がありました。

今後の計画として、委員会は 10 回の会議を予定しており、アンケート調査や地域住民、保護者との意見交換を通じて、学校の適正規模化に向けた方針を策定する予定です。次回の会議では、アンケートの概要や対象者について検討することになっています。福岡教育長は、地域の意見を尊重しながら、慎重に進めていく方針を示しました。

委員会の進行については、地域住民への情報提供や意見の反映が重要であるとされ、地域の人々に委員会の活動を周知することの重要性、地域の声をしっかりと聞くことの重要性を強調しました。

最終的に、委員会の答申をもとに町としての基本方針を策定し、地域との対話を通じて具体的な計画を進めていくことが求められています。

5) その他

次回の会議は 6 月 23 日（月）に開催します。アンケートの内容や対象者についての具体的な検討が行われる予定です。

次回、開催予定日

令和 7 年 6 月 23 日（月） 14：00～